

# 発生生物学

## 著書

- 1) 塩田浩平, 瀬口春道, 大谷 浩, 杉本哲夫: グレイ解剖学. 原著第1版 (Gray's Anatomy for Students, First Edition) (分担訳: 第5章骨盤と会陰、第6章下肢) 総頁: 1082頁 エルゼビア・ジャパン, 東京, 2007

## 学術論文

- 1) Ose T, Kadowaki Y, Fukuhara H, Kazumori H, Ishihara S, Udagawa J, Otani H, Takasawa S, Okamoto H, Kinoshita Y: Reg I-knockout mice reveal its role in regulation of cell growth that is required in generation and maintenance of the villous structure of small intestine. *Oncogene* 26:349-359, 2007
- 2) 籠橋有紀子, 橋本龍樹, 大谷 浩, 名和田清子: 脂肪酸摂取法の違いによる食生活改善における有効性の差異について. *島根女子短期大学紀要* 45:1-7, 2007
- 3) 籠橋有紀子, 大谷 浩: 短期および長期的な食餌環境が血中脂肪酸組成に与える影響について. *島根女子短期大学紀要* 45:9-16, 2007
- 4) Habib H, Hatta T, Ibna Faizur Rahman O, Yoshimura Y, Otani H: Fetal jaw movement affects development of articular disk in the temporomandibular joint. *Congenital Anomalies* 47:53-57, 2007
- 5) Hatta T, Satow F, Hatta J, Hashimoto R, Udagawa J, Matsumoto A, Otani H: Development of the Pons in Human Fetuses. *Congenital Anomalies* 47:63-67, 2007
- 6) Udagawa J, Hatta T, Hashimoto R, Otan H: Roles of leptin in prenatal and perinatal brain development. *Congenital Anomalies* 47:77-83, 2007
- 7) 大谷 浩: 膵臓を含む調和的な組織形成と子宮内環境. *糖尿病と妊娠* 7:17-22, 2007
- 8) 籠橋有紀子, 大谷 浩: 母体環境とI型糖尿病発症について—NODマウスを用いた解析—. *糖尿病と妊娠* 7:23-29, 2007
- 9) Oki S, Hashimoto R, Okui Y, Shen M M, Mekada E, Otani H, Saijoh Y, Hamada H: Sulfated glycosaminoglycans are necessary for Nodal signal transmission from the node to the left lateral plate in the mouse embryo. *Development* 134:3893-3904, 2007
- 10) 八田稔久, 山田真紀子, 島村英理子, 島田ひろき, 二村正行, 松本暁洋, 宇田川 潤, 橋本龍樹, 東 伸明, 大谷 浩: マウス胎児子宮外発生法. *金沢医科大雑誌* 32:16-21, 2007

- 11) Otani H, Udagawa J, Lundh T, Hatta T, Hashimoto R, Matsumoto A, Satow F: Morphometric study on the characteristic external features of normal and abnormal human embryos. *Congenital Anomalies* 48:18-28, 2008
- 12) 籠橋有紀子, 大谷 浩, 帯刀礼子: 糖尿病発症マウス母体から発生した奇形児の細胞遺伝学的・組織学的解析. 島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要 46:27-33, 2008
- 13) Nimura M, Udagawa J, Otan H: Adrenocorticotrophic hormone affects nonapoptotic cell death of undifferentiated germ cells in fetal mouse testis. : *In vivo* study by *exo utero* transplantation of corticotrophic tumor cells into embryos. *Congenital Anomalies* 48:81-86, 2008
- 14) Nakamura K, Ichise H, Nakao K, Hatta T, Otani H, Sakagami H, Kondo H, Katsuki M: Partial functional overlap of the three *ras* genes in mouse embryonic development. *Oncogene* 27:2961-2968, 2008
- 15) 川上浩平, 下崎俊介, 頓宮美樹, 野村正人, 小林裕太, 高橋節典, 大谷 浩, 山田高也: ラットの血中エタノール濃度に及ぼすフィトンチッドの影響. 九州実験動物雑誌 24:33-38, 2008
- 16) Yamada M, Hatta T, Otani H: Mouse *exo utero* development system: protocol and troubleshooting. *Congenital Anomalies* 48:183-187, 2008
- 17) Kawamoto M, Kawakami K, Otani H: Effects of Phytoncides on Spontaneous Activities and Sympathetic Stress Responses in Wistar Kyoto and Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rats. *Shimane Journal of Medical Science* 25:7-12, 2008
- 18) 大谷 浩: 生活習慣病の素因としての全身臓器の組織形成の解析—臓器の組織形成と疾病素因—. *島根医学* 28:266-279, 2008

## 学会発表

- 1) 宇田川 潤, 橋本龍樹, 八田稔久, 大谷 浩: マウス大脳皮質発生におけるレプチンの機能. 第 80 回千里神経懇話会. 豊中市, 2007 年 2 月
- 2) 籠橋有紀子, 武部恵美, 鎌田ルミ子, 帯刀礼子, 森山賢治, 大谷 浩: NOD マウスの糖尿病発症に関わる必須脂肪酸摂取比率と摂取時期について. 第 21 回日本糖尿病動物研究会年次学術集会. 盛岡市, 2007 年 2 月
- 3) 大谷 浩, 八田稔久, 宇田川 潤, 二村正之, 橋本龍樹, 松本暁洋: 神経・免疫・内分泌ネットワーク形成と調和的組織形成機構の発生工学的解析と数理解析. 第 112 回日本解剖学会発生学懇話会. 大阪市, 2007 年 3 月

- 4) 橋本龍樹, 宇田川 潤, 籠橋有紀子, 山田真紀子, 河本 舞, 松本暁洋, 八田稔久, 大谷 浩: マウスにおける髄鞘化に対するニューロペプチドYの影響. 第112回日本解剖学会総会. 大阪市, 2007年3月
- 5) 直良博之, 高橋摩弥, 勢田真由美, 大谷 浩: マウス系球体毛細血管網分枝構造の発生過程. 第112回日本解剖学会総会. 大阪市, 2007年3月
- 6) 籠橋有紀子, 武部恵美, 阿比留教生, 古林正和, 森山賢治, 大谷 浩: 出生前後の必須脂肪酸摂取比率がNODマウスの病態に与える影響について. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会. 仙台市, 2007年5月
- 7) 沖 真弥, 橋本龍樹, 奥井佑子, Michael M Shen, 目加田英輔, 大谷 浩, 西條幸男, 濱田博司: マウス胚左右軸形成において、ノードから左側板中胚葉へのNodalシグナル伝達には硫酸化グリコサミノグリカンが必要である. 第40回日本発生生物学会・第50回日本細胞生物学会合同大会. 福岡市, 2007年5月
- 8) 大谷 浩: 発生学の立場から脳を語る. (特別講演) 第34回日本脳科学会. 出雲市, 2007年6月
- 9) 宇田川 潤: マウス胎児の脳皮質発生におけるレプチンの機能. (奨励賞受賞講演) 第47回日本先天異常学会. 名古屋市, 2007年7月
- 10) 宇田川 潤, Lundh Torbjörn, Hänel Sven-Erik, 佐藤文夫, 大谷 浩: 非調和比を用いたヒト胚子および胎児の外表形態の解析. 日本先天異常学会. 名古屋市, 2007年7月
- 11) 松本暁洋, 八田稔久, 小野篤輝, 大谷 浩: マウス胎児発生過程における顆粒球・マクロファージコロニー刺激因子の組織分布の検討. 第47回日本先天異常学会. 名古屋市, 2007年7月
- 12) 籠橋有紀子, 坪倉直美, 安部希望, 帯刀礼子, 森山賢治, 大谷 浩: 胎児期・乳児期の必須脂肪酸摂取比率と1型糖尿病発症予防の可能性について. 第47回日本先天異常学会. 名古屋市, 2007年7月
- 13) 松尾拓哉, 籠橋有紀子, 千賀靖子, 小西啓悦, 木原隆英, 村上鉄男, 大谷 浩: 微量栄養素と先天異常についての意識調査. 第47回日本先天異常学会. 名古屋市, 2007年7月
- 14) 大谷 浩: 初期発生理解のポイント. (基礎発生学シリーズVIII). 第47回日本先天異常学会・第7回生殖発生毒性専門家教育講習会. 名古屋市, 2007年7月
- 15) 大谷 浩, 籠橋有紀子: 必須脂肪酸摂取比率が1型糖尿病の病態に及ぼす影響. シンポジウム: 生活習慣病の制御に關与する脂質の栄養と代謝の分子生物学的研究. 日本脂質栄養学会第16回大会. 出雲市, 2007年8月

- 16) 籠橋有紀子, 武部恵美, 石倉日南子, 足立美穂, 阿比留教生, 古林正和, 森山賢治, 橋本道夫, 紫藤 治, 大谷 浩: 母体の必須脂肪酸摂取比率が仔の1型糖尿病発生に与える影響. 日本脂質栄養学会第16回大会. 出雲市, 2007年8月
- 17) 内藤貫太, 宇田川 潤, 大谷 浩: ヒト胎児発生過程の調和度解析. 2007年度統計関連学会連合大会. 神戸市, 2007年9月
- 18) 二村正之, 宇田川 潤, 大谷 浩: 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)分泌性細胞 AtT20のマウス胚への移植とその生殖巣への効果. 日本動物学会第78回大会. 弘前市, 2007年9月
- 19) 梅原 毅, 宇田川 潤, 木村 光宏, 合田 薫, 清野 宏, 大谷 浩, 川内 秀之: マウス嗅神経の発生における IL-15 の役割. 第46回鼻科学総会・学術講演会. 宇都宮市, 2007年9月27日~29日
- 20) 山田真紀子, 濱崎真弓, 宇田川 潤, 松本暁洋, 二村正之, 橋本龍樹, 南 康博, 大谷 浩: マウス胎生中・後期における Ror2 の発現パターンの解析. 日本解剖学会第62回中国・四国支部学術集会. 倉敷市, 2007年10月
- 21) Hashimoto R, Udagawa J, Kagohashi Y, Matsumoto A, Hatta T, Otani H: Analysis of myelination and differentiation of oligodendrocytes in the cerebrum of obese mice (ob/ob) in the postnatal period. 37th Annual Meeting of the Society for Neuroscience. San Diego, USA, November 3-7, 2007
- 22) Udagawa J, Otani H: The role of leptin in fetal brain development. 5th International Congress on Developmental Origins of Health & Disease, Perth, Australia, November 6-10, 2007
- 23) 大谷 浩: 疾病素因に関わる調和的な組織形成機構としての神経免疫内分泌ネットワーク. 第14回NIH研究会. 東京都, 2007年11月
- 24) Otani H: Different phases of human development: contributing factors and medical significances. International Symposium: Mathematical Analyses of Human Development, Matsue, Japan, January 18, 2008
- 25) Udagawa J: Application of the cross-ratio and the multivariate analysis in human development. International Symposium: Mathematical Analyses of Human Development, Matsue, Japan, January 18, 2008
- 26) 佐藤文夫, 松本暁洋, 大谷 浩: ヒト胚子のステージングと胚子肉眼立体的永久標本の作製. 第3回島根大学医学部技術セミナー. 出雲市, 2008年2月
- 27) 宇田川 潤, 橋本龍樹, 二村正之, 松本暁洋, 小野篤輝, 山田真紀子, 河本 舞, 大谷 浩: 胎児期の神経発達と内分泌環境の関連について. (シンポジウム) 第5回日本小児栄養研究会. 奈良市, 2008年3月

- 28) 宇田川 潤, 内藤貫太, 安田 晃, 佐藤文夫, 山田真紀子, 大谷 浩: ヒト胎児臓器形態発生の多次元解析. 第 113 回日本解剖学会総会. 由布市, 2008 年 3 月
- 29) 松本暁洋, 八田稔久, 小野篤輝, 河本 舞, 井上隆之, 橋本龍樹, 大谷 浩: マウス胎児の脳と体液における顆粒球・マクロファージコロニー刺激因子発現分布の解析. 第 113 回日本解剖学会総会. 由布市, 2008 年 3 月
- 30) 直良博之, 工藤春華, 小松原 聡, 福田健一, 大峠 忍, 佐藤公紀, 大谷 浩: マウス腎系球体毛細血管における血流シミュレーションの試み. 第 113 回日本解剖学会総会. 由布市, 2008 年 3 月
- 31) Udagawa J, Hashimoto R, Ono A, Itoh H, Otani H: Leptin affects the development of neural lineage cells during the prenatal period. 55th Annual Meeting of the Society for Gynecologic Investigation, San Diego, USA, March 26-29, 2008
- 32) 岩本凡子, 井上隆之, 大谷 浩: 極短時間の人体解剖実習見学に対する学生の意識と人体解剖実習見学への取り組みに対する課題. 第 43 回日本理学療法学会. 福岡市, 2008 年 5 月
- 33) Udagawa J, Hashimoto R, Otani H: Leptin affects the development of the cerebral cortex during the prenatal period. (Special Symposium: Developmental Origins of Health and Disease) 15th Congress of the FAOPS 2008, Nagoya, Japan, May 20-24, 2008
- 34) Yamada M, Hamasaki M, Udagawa J, Matsumoto A, Hashimoto R, Nishita M, Minami Y, Otani H: Expression patterns of Ror2 receptor tyrosine kinase in mouse gut development. 第 41 回日本発生生物学会. 徳島市, 2008 年 5 月
- 35) 宇田川 潤, 橋本龍樹, 小野篤輝, 大谷 浩: 胎児期の神経発生におけるレプチン-NPY 系の役割. (招待講演) 第 1 回伊勢志摩 DOHaD カンファレンス. 津市, 2008 年 6 月
- 36) 宇田川 潤, 内藤貫太, 安田 晃, 山田真紀子, 佐藤文夫, 大谷 浩: 多変量解析によるヒト胎児臓器の調和的発生様式の検討. 第 48 回日本先天異常学会学術集会. 東京, 2008 年 6 月
- 37) 橋本龍樹, 河本 舞, 小野篤輝, Jahan Esrat, Rafiq Ashiq, 大谷 浩: 生後マウス脳における髄鞘化及び稀突起膠細胞の分化に対するレプチンの影響. 第 48 回日本先天異常学会学術集会. 東京, 2008 年 6 月
- 38) 松本暁洋, 八田稔久, 小野篤輝, 河本 舞, 張 慶華, 大谷 浩: マウス胎児の中枢神経系における顆粒球・マクロファージコロニー刺激因子およびレセプターの発現解析. 第 48 回日本先天異常学会学術集会. 東京, 2008 年 6 月
- 39) 佐藤文夫, 松本暁洋, 張 慶華, 井上隆之, 大谷 浩: ヒト胚子の肉眼立体的永久標本の作製. 第 48 回日本先天異常学会学術集会. 東京, 2008 年 6 月

- 40) 直良博之, 堂端香織, 佐藤怜子, 大谷 浩: PSK の抗催奇形作用における TNF- $\alpha$  の関与. 第 48 回日本先天異常学会学術集会. 東京, 2008 年 6 月
- 41) 松尾拓哉, 籠橋有紀子, 千賀靖子, 小西啓悦, 竹森久美子, 木原隆英, 村上哲男, 大谷 浩: 微量栄養素と先天異常についての意識調査 (第 2 報). 第 48 回日本先天異常学会学術集会. 東京, 2008 年 6 月
- 42) Inoue T, Hashimoto R, Kawakami K, Otani H: Transmission electron microscopic study of the morphogenesis of the muscle-tendon junction complexes during the development of the limbs. 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, Chiba, Japan, August 29 - September 1, 2008
- 43) 井上 隆之, 橋本 龍樹, 大谷 浩: 体肢発達過程における筋腱複合体の形成過程の光学顕微鏡および透過型電子顕微鏡による解析. 日本解剖学会第 63 回中国・四国支部学術集会. 出雲市, 2008 年 10 月
- 44) 長島玲子, 宇田川 潤, 大谷 浩: 出産後尿失禁の慢性化予防を目的とする骨盤底筋訓練の効果の形態学的評価. 日本解剖学会第 63 回中国・四国支部学術集会. 出雲市, 2008 年 10 月
- 45) 川上浩平, 下崎俊介, 頓宮美樹, 大谷 浩, 山田高也: 4 種類の木製エンリッチメント材に対するマウスの行動学的反応. 第 26 回九州実験動物研究会総会. 佐賀市, 2008 年 11 月
- 46) 川上浩平, 下崎俊介, 頓宮美樹, Sultana Razia, 土倉 寛, 野村正人, 小林裕太, 並河 徹, 山田高也: メタボリックシンドロームモデルラット (SHR/cp) に対する給餌制限の効果. 第 44 回高血圧関連疾患モデル学会. 出雲市, 2008 年 11 月
- 47) Udagawa J: Harmonized development of human body parts analyzed by cross-ratio and multidimensional scaling methods. International Symposium: Mathematical Analyses of Developmental Phenomena, Matsue, Japan, November 23, 2008
- 48) 大谷 浩: 臓器の組織形成と疾病の素因形成のかかわり. (シンポジウム) 第 24 回日本糖尿病・妊娠学会. 高崎市, 2008 年 11 月
- 49) Nakamura M, Shimosaki S, Kasuga M: The ubiquitin-like protein MNSFbeta regulates phagocytosis. *Biochemistry and Molecular Biology* 2008. 神戸市, 2008 年 12 月
- 50) 大谷 浩: 臓器の組織形成と疾病の素因形成のかかわり. (招待講演) 第 19 回胎生期エピジェネティック制御研究所会議. 東京都, 2008 年 12 月